

令和2年度第2回島田市認知症対策検討委員会

開催日時 令和3年2月22日(月) 19:00~20:05

開催場所 島田市保健福祉センター 研修室(3階)

出席者 【委員】

島田市医師会(サポート医)	小埜 聡司(会長)
島田市医師会(サポート医)	田口 博之(副会長)
榛原医師会(認知症かかりつけ医)	高木 勇人
地域包括支援センター(第一・北)	栗田 真理
地域包括支援センター(第二)	齋藤 富美恵
地域包括支援センター(六合)	鈴木 桂子
地域包括支援センター(初倉)	遠藤 久哉
地域包括支援センター(金谷)	塚本 里枝
地域包括支援センター(川根)	杉村 亜紀子
グループホーム(一期一会)	大久保 武明
ケアマネジャー(ケアマネットしまだ)	増田 朝美
認知症家族の集い(会員)	大石 豊子
認知症家族の集い(会員)	戸田 奈津子
民生委員	増田 隆男
島田薬剤師会	清水 雅之
榛原薬剤師会	進士 寿子

16人

【事務局】

包括ケア推進課長	酒井 敏弘
地域支援係長	畑中 陽子
書記	曾根 翼
主任保健師	持塚 安代

欠席者

デイサービス(アポロン伊太)	永井 順子
----------------	-------

1 開会

2 会長あいさつ

オンライン会議も定着してきた。ウイズコロナの対応をいただいている。

ウイズコロナの課題、取り組みについてのご意見を活発に発言していただければと思います。

3 報告・検討事項

事務局説明

- (1) 島田市の認知症施策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1

各地域包括支援センター説明

- (2) 地域包括支援センターの認知症施策に関する取り組み・・・・・・・・・・資料2

意見交換

委員) 居宅のケアマネジャーとして、昨年からコロナ対策としてモニタリングや担当者会議など、対面を控えている。実際、コロナを理由に訪問の拒否、デイサービスの利用を辞めた人もいる。コロナ以外のリスクとしては、引きこもり生活による認知症の悪化、虐待のリスクも重視しなければならない事例も増えてきている。コロナのリスクとコロナ以外のリスクのバランスに、配慮しなければならない場面があると感じている。

会長) 広島大学がケアマネジャーを対象に調査した報告において、4割の利用者の方は悪化をしていると回答があった。ADLの低下、認知症、BPSD症状の悪化があると言われている。外来で診察をしていると最近、区分変更の患者さんが少し多い。デイサービスを控えられているせいか、ADLが落ちてきているかなと感じている。

委員) グループホームの事業所として昨年、市内で感染者の発表が少なかった時期から緊張感が高まってきた。市内で感染者が出始め施設の面会の制限の検討。職員の配偶者、もしくは子供が東京へ出張に行くことがある。その場合、安心材料がない中で決断をしなくてはならなかった。

資料説明にあったようにコロナ禍で認知症の関心が薄くなってしまい、今まで積み重ねてきた活動が蓄積できないのはもったいない。次年度も発信を続けて、認知症の関心が途切れないようにしてもらいたい。

委員) コロナ禍で認知症カフェの実施は難しいが、薬局が主体なので、相談のある方は薬局に来てくれる。カフェに参加していた方のフォローはできている。

薬局としても2020年の薬事法の改正により投薬後のフォローが義務化されたこと。認知症等により服薬に困難があると思う方について、薬局は投薬後の数日後にフォローをする仕組みとなり、認知症のサポートをしていく。

薬剤師の在宅訪問サービスを薬剤師会で推進しており、当薬局が在宅相談の窓口となっている。今までは寝たきりの相談が多かったが、今は認知症による服薬の困難の相談が多い。今までは遠方にいる家族が服薬のサポートやフォローをしていたが、家族が来られない状況がある。在宅訪問に対応できる薬局を、島田薬剤師会の範囲内でリストとしてチラシを作成している。服薬に困難者がいれば、薬剤師会に相談してもらいたい。

会長) 医師が処方した薬を内服するのは、通常はできること。認知症である、独居である、老々介護であると服薬が難しい。薬を処方しても服薬してもらえないか不安がある。このような取り組みは心強い。

委員) 金谷家族会について、5月は中止したが月1回は開催継続している。介護者の参加が多くコロナで来なくなった方はいない。10月11月1人ずつ新規利用者がいたが、内容があわないという事で継続参加はしていない。介護者は参加しているが認知症本人はこない。チームとしてはどのように支援していくか課題。
内容についてコロナ対策で手洗い講座を中部保健所で手洗いキットを借りて、包括が講話をしながら開催した。

会長) 外来で本人は来ない、介護者が診察に来た場合のセルフケア、こころのケアを十分行うには家族会の開催が重要。

委員) 父親が外出したがらず、介護申請をして要介護1となった。母親はデイサービスを利用している。外出したがらない父親の介護も加わり、両親2人の面倒をみなくてはいけない。家族会への参加も難しい。生活の状況も変化している、そういうご家族が増えたと思う。

会長) コロナの影響で認知症や家族へ悪化の拍車をかけている。この時期をいかに乗り切るか、みんなでやっていくしかない。

委員) 1か月おきに家族会に参加している。9月のユマニチュードDVD学習会で認知症の人は視野が狭い、ゆっくり話をする事、触れる時もいきなり触れないなどを知り参考になった。家族の集いが月に1回開催であるので、予定が組めない方もいるかもしれませんが参加者が少ない。介護の悩みや不安が共有できるので、私もまた明日からお世話させてもらおうという気になるので、多くの方に利用してもらいたい。

委員) 昨年、主に新任の民生委員を対象に認知症サポーター養成講座を10月に、会場のスペースを考えて2回に分けて16名が受講した。

昨年は、7月までは定例会が開催できず民生委員の交流も10月以降となった。顔と名前が一致しないということが各地区で聞かれている。月1回会っても、遠くてマスクをしていると覚えられない。会場のスペース、定例会、研修会の在り方に苦慮している。今年も研修会を分けて包括に協力してもらって開催をしていきたい

会長) コロナ禍での取り組みでありますので、引き続きお願いします。

委員) 相談内容はコロナを理由に外出しなくなった。外出させるにはどうしたら良いか。地域の活動に参加しても良いか、と言う相談があった。支援方法としては高齢者世帯や独居世帯には定期訪問をしていたが、コロナ禍において電話で安否確認をするように変更をした。

電話が繋がらない家だけ訪問をして安否確認をするようにした。しまトレの実施について、2部制で行うように提案をした。

委員) コロナで遠方の家族が訪問できない。介護申請や訪問調査の日程調整に時間がかかることがあった。日頃から地域の人と仲良く交流ができる方は地域の見守り、声掛けが維持できる。元気な頃からうまくいっていない方については、近所から施設入所してもらえないかという相談があった。日頃からの近所付き合いが大切だと思った。

認知症になっても住み慣れた自宅で生活を続けられるのか、差がでてくるなと思った。

委員) コロナを理由に外出しない、デイサービスを一時的に休む方、訪問は控えてもらいたいという申し出もあった。久しぶりに会うと認知症が進んでいることもあった。

県外の家族がキーパーソンであり、感染流行地にお住まいの場合、家族が来られなくて認知症が進行している方もいた。感染流行地にキーパーソンがいる場合、在宅勤務になり電話やメール等連絡がとりやすくなったケースもあった。実施には至っていないがオンラインでの聞き取り、担当者会議の選択肢が増えた。県が作成したDVDや体操カードを配布し、セルフケアの大切さが元気な方には普及できた点は良かった。

委員) 外出を控えているため、会話が少なく認知が進んでいると家族が言ってきた方がいた。家族も外出を控える中、遠方の家族、知人が来ることができずに、本人も家族もストレスを感じている。家族が介護者に言い過ぎている場面に遭遇したこともあった。薬局に来た場合には、家族や本人に声掛けをして、雑談をできる限りする対応を心がけている。

委員) 認知症の相談件数は増えたと実感している。本人が不安になってどうしたら良いのか、包括へ頻回に電話をかけてくる。精神的に不安定で泣いて、訴えてきた方がいて対応が大変だった。

年末には家族が帰省できず、急に症状が悪化をして区分変更をかけた方もいた。

年明けから健康は口から元気は食からのパンフレットを配布できる限り配布をしていて、予防に努めている。

委員) コロナ禍において認知症の家族の肉体的、精神的負担が増えている。感染対策を行い来所時の相談、訪問を行うことで身内の方の気持ちが楽になる支援に重点をおきたいと考えている。

委員) 面会禁止の影響を感じている。資料にある面会禁止に伴う認知機能の低下に取り組んでいなくてはならない。

委員) 認知症のある患者を含め往診も行っている。患者をサポートする家族が遠方にいると来られないため、残っている患者の家族に負担が集中している。退院後の家族の負担が増え、ケアがうまくいかない。熱がでるとケアもヘルパーもうまく利用できない点に悩む。

会長) 今のコロナの問題、施設・デイサービスで抱えている問題、薬局の取り組み、包括の取り組みの話が聞けた。課題もでてきた。
共有していき検討をしていきたい。

4 閉会

事務局) 会長、委員の皆様 2 年間任期を務めていただきありがとうございました。以上で第 2 回 認知症対策検討委員会を終了します。皆様、貴重なご意見をありがとうございました。